

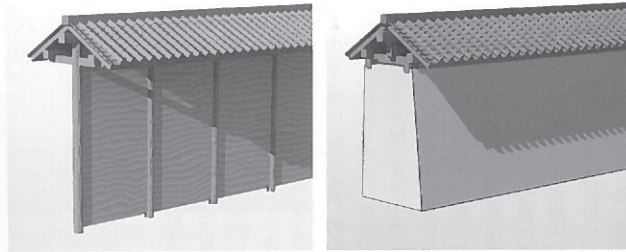
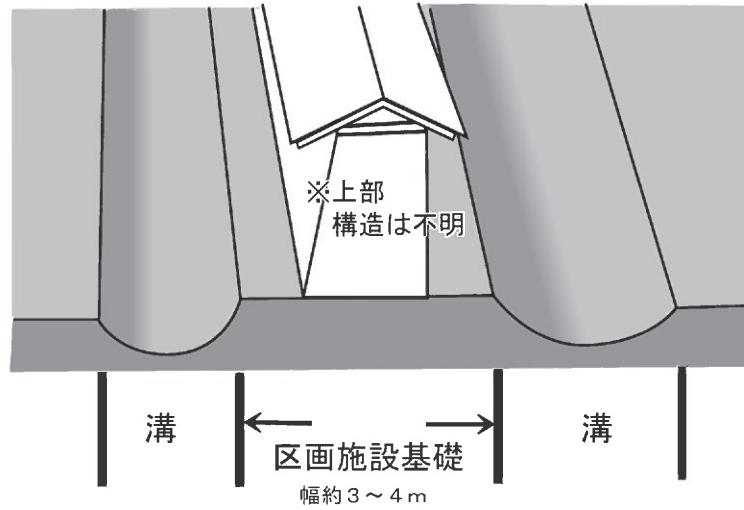
平成29年度

上野国分尼寺跡確認調査 現地説明会

高崎市教育委員会では、昨年度から上野国分尼寺跡の範囲や内容を明らかにするための確認調査に着手し、尼坊跡の発見など大きな成果をあげることができました。今後関係者の方々にご理解・ご協力をいただきながら、調査を継続していく予定です。

今年度の調査は5月に着手しました。調査の結果、東側の調査区で塀あるいは築垣の基礎を確認し、伽藍東辺位置をほぼ確定しました。また、南側の調査区では回廊跡と推定される遺構を、良好な状態で確認しました。回廊跡の位置が判明すれば、伽藍内の建物配置解明に向けて大きな手がかりとなり、今後一層、上野国分尼寺跡の内容が明らかとなっていくことが期待されます。

確認された区画施設基礎の模式図



掘立柱塀のイメージ 築垣のイメージ
※「武蔵国分寺のはなし」国分寺市教育委員会 2014 より

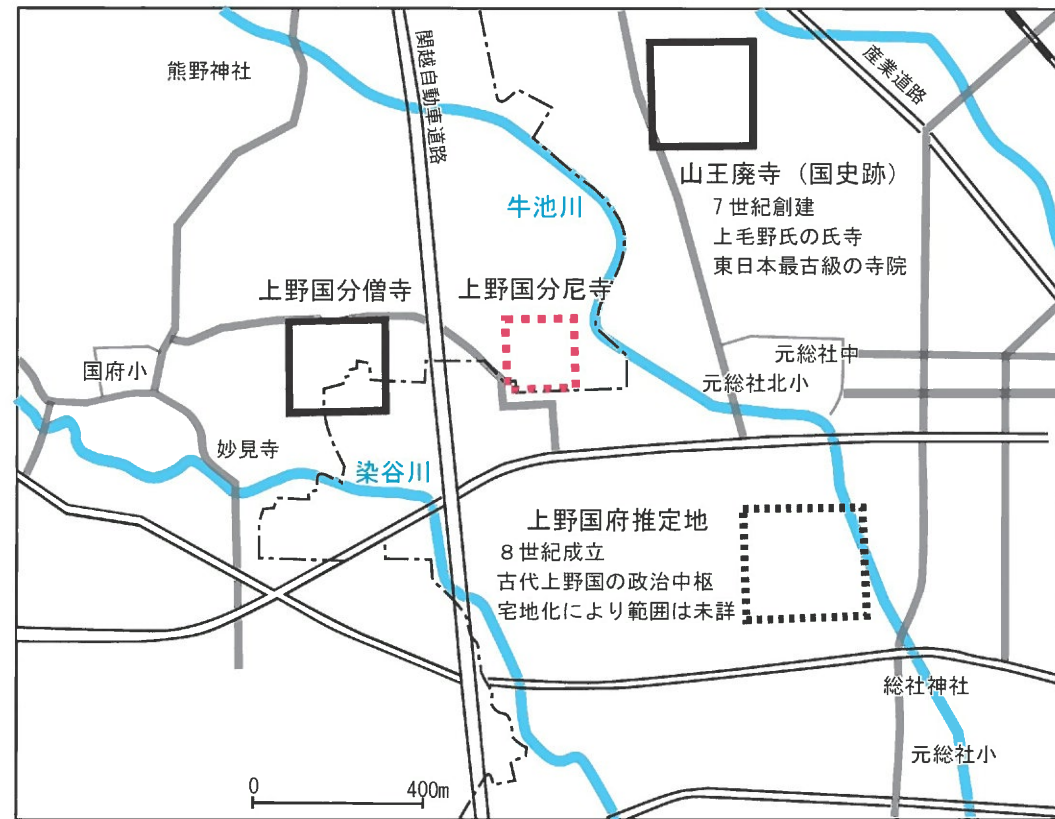


出土した瓦
6-1トレンチより出土

国分尼寺とは

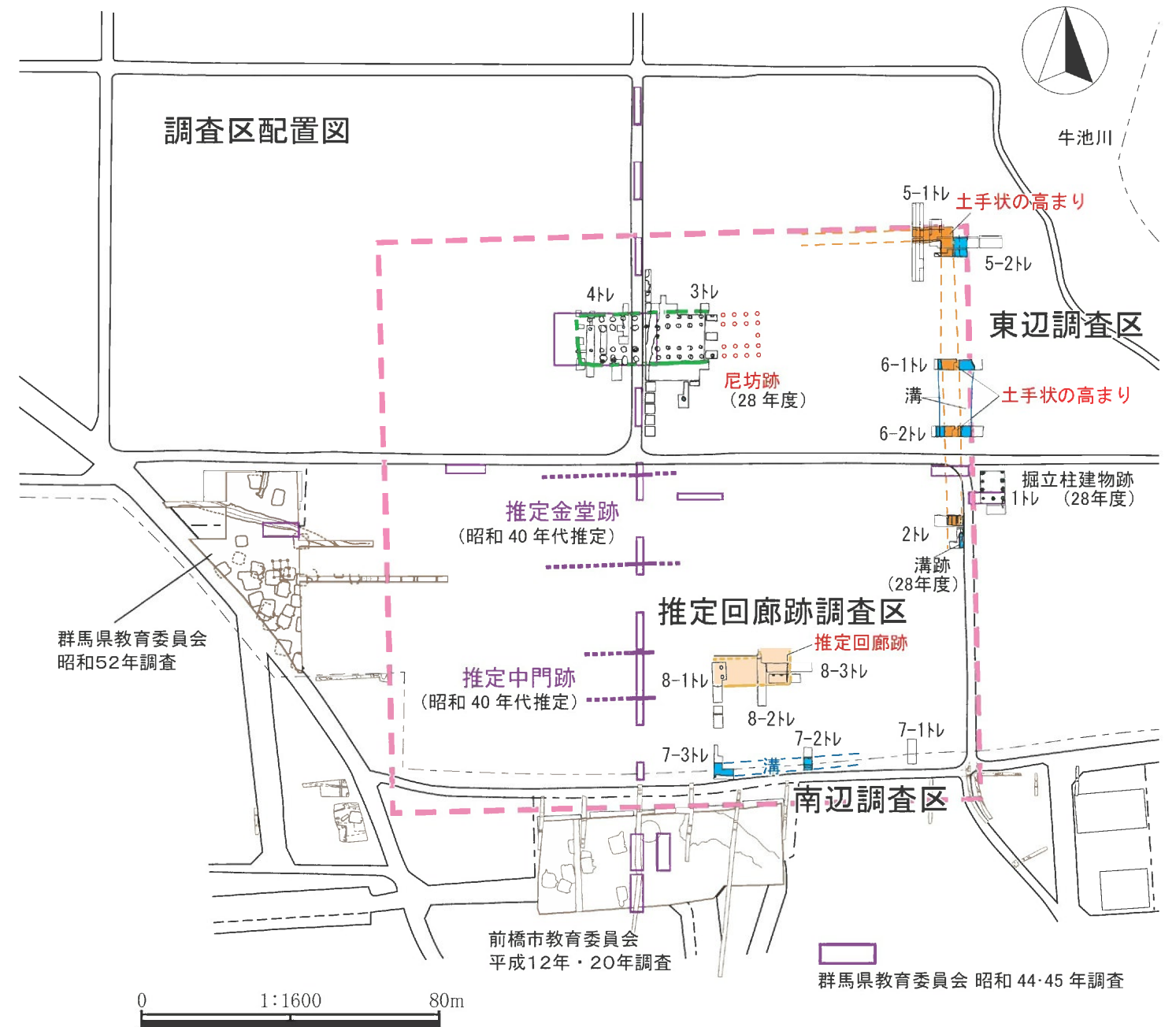
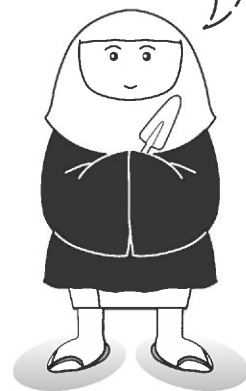
奈良時代の天平13(741)年、聖武天皇の「国分寺建立の詔」により、国(現在の県に近い)ごとに僧20名をおく金光明四天王護国寺(こんこうみょうしてんのうごこのてら・国分僧寺)と尼10名をおく法華滅罪之寺(ほっけめつざいのてら・国分尼寺)が建てられた。上野国分尼寺跡は、史跡上野国分寺跡(上野国分僧寺)の東に存在した。

国分僧寺・尼寺では、国を護り繁栄させる教を説いた経典を唱えたり、暦(こよみ)や薬の知識など最新の学問についての研究がされていた。

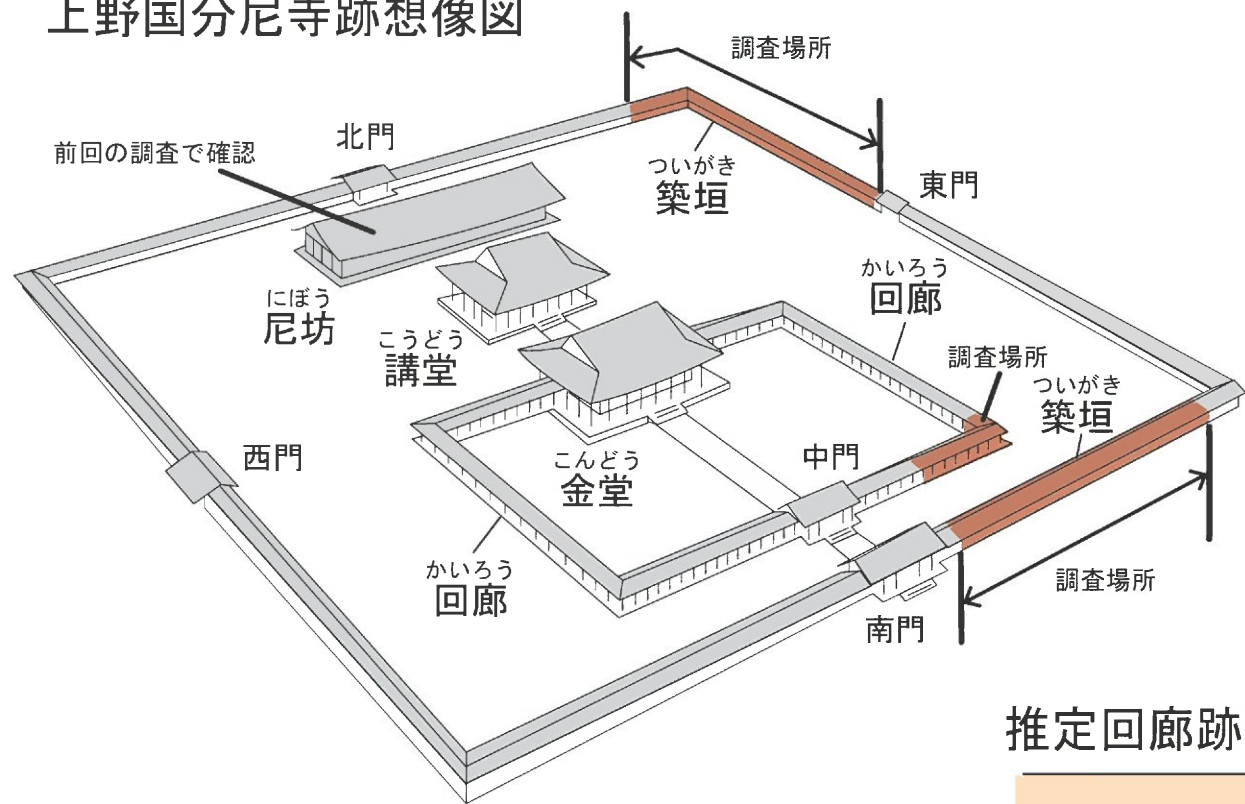


用語解説

- 伽藍(がらん)**
寺院の主要建物群
- 金堂(こんどう)**
本尊を安置する建物
伽藍の中心的建物
- 講堂(こうどう)**
経典の講義や説教をする建物
- 尼坊(にぼう)**
尼が日常生活を送る宿舎
僧寺では「僧坊」



上野国分尼寺跡想像図



上総国分尼寺
復元回廊・中門

「発掘いちはらの遺跡」3号
市原市教育委員会 2010 より引用

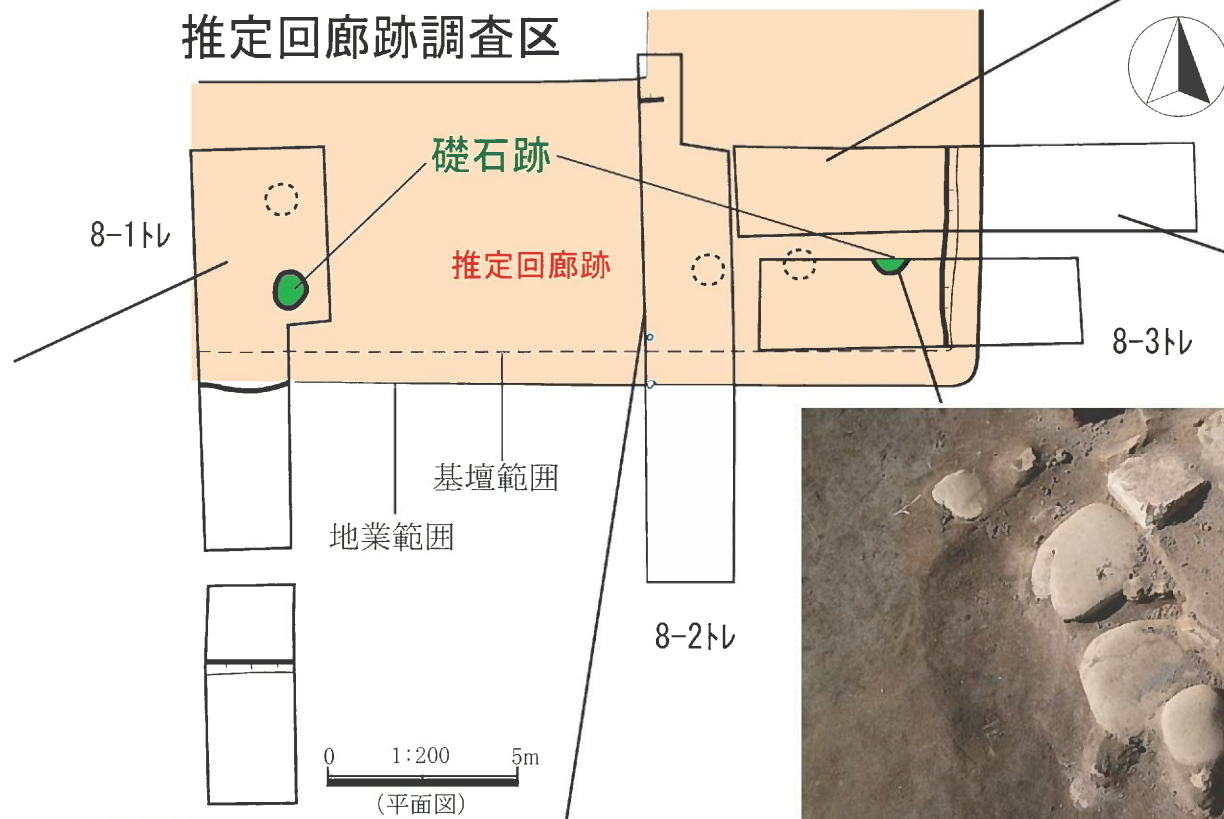


盛土の中に敷き込まれた瓦
現地に置いた後に割っています。

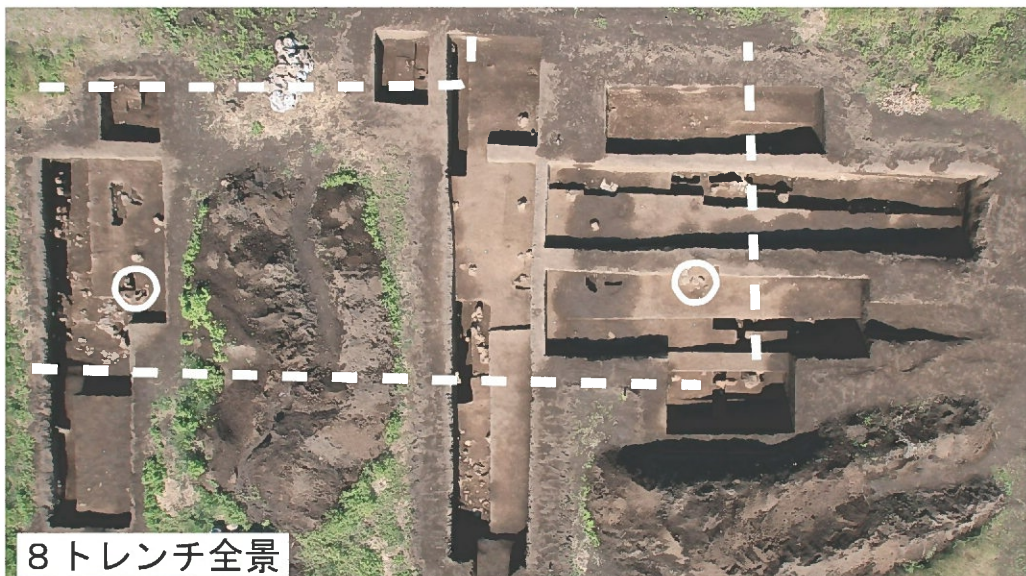


基壇部分に敷き込まれた瓦
部分的に盛土をはがして調査したところ、
多量の瓦が敷かれていたことがわかりました。
基壇部分の補強のためと思われます。

推定回廊跡調査区



基壇外側で
確認された
大量の瓦



8トレンチ全景



基壇部分の断面 +を薄く層状に重ねてしっかり築いています。

礎石跡
根石が残存していました。

